

## P-5

## 自然発症高血圧ラットにおける釣藤散の降圧作用

富山医科薬科大学・和漢薬研究所・生物試験部門

○趙 琦、渡辺裕司、村上孝寿、東田道久、松本欣三

【目的】高血圧は脳血管疾患や冠動脈疾患などの重要な危険因子である。特に、釣藤散は高血圧症やそれに付随した症状を改善する目的で使用されている。今回、我々は釣藤散、釣藤散の主薬加減方剤および釣藤鈎の自然発症高血圧ラット(SHR)の血圧に対する作用を無麻酔下で検討し、興味ある知見を得たので報告する。

【方法】1) 実験動物：9週齢の雄性SHRと同週齢の雄性WKYおよび5週齢SHR-SP(日本エスエルシー株式会社,静岡)を使用した。2) 実験薬物：常法に従って煎じ、凍結乾燥した釣藤散エキス、石膏抜き釣藤散エキス、釣藤鈎抜き釣藤散エキスを使用した。また、釣藤鈎を15分あるいは60分煎じたエキスを調製して用いた。エキス全て経口投与した。比較対照薬としてnifedipineおよびdiazepamを経口投与した。3) 血圧の測定：Softron(BP-98)式血圧記録計(株式会社ソフトロン)を用いて、無麻酔下非観血的に尾動脈血圧および瞬時心拍数を測定した。

【結果】(1) 釣藤散の急性投与：0.5~2.0g/kgを単回経口投与すると、SHRの血圧は有意に下降したが、WKYの血圧に変化はみられなかった。石膏抜き釣藤散エキスでは血圧低下作用が著しく弱くなった。釣藤鈎抜き釣藤散エキスには血圧低下作用が認められなかった。対照薬であるnifedipineもSHRの血圧を下降させたがdiazepamには血圧低下作用が認められなかった。釣藤鈎を15分煎じたエキスは有意な血圧低下作用を示したが釣藤鈎を60分煎じたエキスには血圧低下作用が認められなかった。

(2) 釣藤散の連続投与：SHR-SPにエキスを0.5g/kg/dayになるように調製して飲水投与した。投与10日後から血圧は有意に下降した。

【考察・結論】釣藤散エキスの急性および慢性投与よりSHRとSHR-SPの血圧は用量依存的に下降した。釣藤散の降圧作用における釣藤鈎や石膏の役割は従来から言われている説を裏付ける結果であった。